

## Focus on!

## 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

## フィリピン人移住者センター (日本語学習支援基金 日本語教室学習支援事業認定団体)

フィリピン人移住者センターは22年前、名古屋市中区栄地区を拠点とし、地域在住フィリピン人支援の活動を始めました。22年の間にフィリピン人住人の抱える問題も変化し、約10年前からは、フィリピンから呼び寄せられた子どもたちの学習の問題や、親子関係の問題が目立つようになりました。そんな中、子どもたちの学習支援や、日本語習得支援を目的とし、トライシクル日本語教室が開催されるようになりました。

小学生から高校生まで、常時10人ほどの生徒の参加があり、子どもの指導をするのは、地域の町内会の方々、元教員、日本語講師の方々と様々な経歴を持つボランティアの方々です。最近では、大人や、フィリピン以外の国にルーツを持つ子どもも受け入れています。外国籍の子どもたちが地域住人の方々と関わる機会には多くはありません。学習支援はもちろんですが、トライシクルは、地域の方との交流の場であったり、言葉も文化も違う国で生活することに戸惑っていたり、また、その他様々な事情をかかえる子どもたちの居場所としての役割も果たしています。週一回の教室では、学力の向上につなげるのは難しい部分もありますが、子どもたちが、少しでも楽しく、明るく生活していくための、一助となることを願っています。



▲教室全体の様子



▲日本に来たばかりの生徒。ひらがな練習の様子

## フィリピン人移住者センター

住所：名古屋市中区栄5-19 老松学区集会所  
E-mail：an\_buccho@hotmail.com

## Focus on!

## 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

## 「食べ物の豊富なモザンビークで食料・栄養改善!?!」 モザンビーク (JICA 海外協力隊 加藤 美希)

モザンビークは、南アフリカ共和国の北東、海を挟んでマダガスカルに隣接しています。公用語のポルトガル語のほか、13ものローカル言語があり、私の住む首都マプト周辺で話されるのはシャンガナ語です。国民の80%近くの人々が農業に従事していて、食べ物は豊富です。普段食べる食事は、朝食は茹でたさつまいもやタピオカ芋とお茶、昼食や夕食はシマ(とうもろこしの粉を練ったもの)とカリール・テ・アメンドウイン(芋類などの葉をピーナッツの粉で煮込んだもの)やフェイスジョアダ(豆の煮込み)が多く、栄養たっぷりです。内陸に行けばお肉料理が、海沿いでは魚料理が食べられ、ポルトガルの影響でパンも人気でココナッツやトマトを使った料理もあります。

首都にいと何でもあるように見えるのですが、田舎では、主食のとうもろこしの虫食いやカビなど保存の問題で食べるものがなくなったり、一部の人々は収入が十分ではなく、お隣さんからもらったりしているようです。理由は他にもありますが、残念なことに5歳以下の慢性栄養不良の子どもが40%近くもいます。その悩みを解決するために私は活動しているのですが、日本人の感覚では、技術の発達した時代に、何故虫食いに悩まされるのか不思議に思うかもしれませんね。



▲プロジェクトの進行具合を聞かせてもらうため集まってくれた村の人々



▲電車の車窓から。首都近郊でも一面に広がる畑



▲とうもろこしの保存方法の講習会

ただ、人々の感覚や生活習慣も違います。特に感じる日本人との違いは、時間や約束です。待ち合わせ時間になっても来ない友人に電話をすると、「あと少しで着く」と言われ、2時間待ちます。しっかり来る人もいれば、結局来ない人もいて、連絡が取れないまま約束をすっぽかされることもよくあります。お昼ご飯に呼ばれると、大体食べ始めるのは16時~18時です。その待ち時間に「何してるの?」と言うと、料理はしていますが、音楽を流して踊ったり、おしゃべりしたり、暑ければシャワーを浴びに行ったり…。どの決断による行動も優先事項は時間ではありません。時間に追われる日本人とは大きく違うからこそその楽しみと苦悩を味わいながらモザンビークでの生活を送っています。